

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470800885		
法人名	株式会社 森伸		
事業所名	ケアパートナー森伸小俣 ユニット2		
所在地	三重県伊勢市小俣町明野1308		
自己評価作成日	令和 元 年 11 月 14 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470800885-00&amp;ServiceCd=320">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;Ji_gvosyoCd=2470800885-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	2019年 12月 11日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来る限りご入居者のペースや意思を尊重し生活して頂いている。</li> <li>・関わりの中から楽しい事を見つけ明るく穏やかな時間が流れている。</li> <li>・ご入居者同士支えあっていけるよう、職員が橋渡しをさせて頂いている。</li> <li>・ご家族などの希望を踏まえ、可能な限りのターミナルケアを実施している。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、来訪者の面会時間を365日24時間可能にしたことにより、家族・友人・知人の訪問者が多い。玄関および各ユニットの入口に体温計が置かれ、職員も含めて出入りする人の体調に気を配り、利用者への感染防止の工夫をしている。フロアの出入り口では「ただいま」「お帰りなさい」と笑顔で挨拶をする光景は、事業所の理念「その人を想い 寄り添い 共に生きる」に基づき、全職員が自宅同様に家庭的な雰囲気の中での支援に努めている。また、併設されている保育園の園児の訪問、地元の中・高生の職場体験受け入れなどで、沢山の相乗効果をもたらしてくれている事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「一人の人を大切に」小俣の理念「寄り添い共に生きる」を基本に、ご入居者一人一人との関わりを大切に、実践している。	事業所の理念を玄関およびフロアに掲げている。管理者と職員は申し送り時や部署会議などで常に理念を振り返り、共有しながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣へ散歩に出掛けた時など近隣の方と顔を合わせた時は挨拶をするなど基本的なことから行っている。イベント時は近隣の方に参加・見学して頂けるよう取り組んでいる。	散歩を兼ねて外出した時には近隣住民と挨拶をしている。毎年、中・高生の職場体験やボランティア活動の受け入れをし、出来る限り地域との繋がりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	明野高校福祉科の生徒の実習受け入れ、中学校生徒の職場体験の受け入れを行い実際に認知症の方と関わりを持つことで少しでも理解をして頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開き、ご利用者の状態や入居状況など報告し意見交換を行っている。	年6回、地域包括支援センター職員・介護相談員・利用者家族の参加で、同系列の事業所と共に合同で開催している。外部の多種多様の方々からの意見や要望を出していただき、サービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に行政の方も出席して頂き、話し合いに参加して頂いている。	市とは日頃から連携・協力関係を大切に、市主催の研修会に参加して情報交換をしている。管理者やケアマネージャーが生活保護による扶助などの相談、介護関係の給付について関係機関の窓口に出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会社研修や外部研修で勉強し部署会議で報告・話し合いを行い、職員一人一人が意識を持ち実践につなげられるよう取り組んでいる。	法人の年間職員研修会にプライバシー保護も含めて拘束をしないケア、虐待の防止などマニュアルに沿って勉強している。日々のケアの中で気づいた事例があれば、その都度、話し合い、拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社研修や外部研修に参加し勉強すると共に、職員間で声掛けを行い日々意見を出し合い意識を持つことで虐待の防止に努めている。入浴時などに全身観察を行い傷などがいないかの観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社研修を行い学ぶ機会を設けている。以前、制度を利用してのご入居者もあり、制度を身近に感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書をみて頂きながら、説明・質問に対してお答えをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に職員も出席し、ご家族からの意見を伺っている。伺った意見は部署会議などで他職員に伝え、話し合いを行っている。面会時にご入居者の状態をお伝えし要望などお話を伺っている。	365日24時間いつでも面会可能になり家族の訪問が多い。遠い家族には年4回発行の「森伸だより」や電話などで意見や要望を聞いている。家族アンケートも含め聞いた意見は部署会議で共有し、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議で職員の意見や提案を話し合ったり、日々の職員の声を大切に改善や職員間の統一を行うようにしている。	職員は年2回、管理者と面談する他、いつでもメールで相談することが出来るシステムになっている。又職員専用の業務日誌に意見・提案などを書き込み管理者に伝えており、検討を要する内容は部署会議で提案している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は自己評価を行い、日々の振り返りを行っている。職員一人一人自分の中で目標を立て取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の会社研修は同じ内容を複数回行い、職員が参加しやすい環境を作っている。外部研修の案内も行い参加を勧めている。外部研修に参加した職員はその月の部署会議で発表し全職員に伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加し、他事業所職員と交流を図っている。研修内容は部署会議で発表し話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して過ごして頂けるよう、ご本人の要望や困り事などを伺い話し合いを持っている。その時その時の様子を記録に残し情報を共有し信頼関係づくりに活かしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に話を伺い施設の見学をして頂いている。困り事や要望などお話を伺いアドバイスや解決の糸口を見つけられるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の見学をして頂いた際などにお話を伺い必要としている支援を見極め、他施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者一人一人出来ることを見極め、洗濯干しや洗濯たたみ、食事の準備・盛り付けなど毎日の日課として一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際はご本人も交え話し、状態や様子を伝えさせて頂き定期的にご家族へのお便りも出させて頂いている。ご家族にイベントの案内もし、参加して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎日の会話の中でご本人の生活歴を把握し、馴染みの場所や人の話題を上げ忘れてしまわないように努めている。	家族・友人・知人が気軽に訪ねてくれる雰囲気があり、訪問者が多い。また、自宅訪問やお墓参り、馴染みの店や美容院へ行くなど個々の希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者一人一人の人間関係を把握し、席決めを行っている。ご入居者同士声を掛け合ったり、車椅子を支えてくださったりとご利用者同士支えあっている。ご利用者同士の会話が困難な場合などは職員が橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も運営推進会議への参加や納涼祭などのイベントにも参加して頂くなど関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や関わりの中でその方の思いや希望、意向の把握に努めている。困難な場合は関わりの中で表情などを読み取りその人の事を思い検討している。	日々の支援の中、特に入浴時・居室等の会話で聴いたことは業務日誌に記入し、職員間で共有しながら希望や意向の把握に努めている。新聞や広告を見た時に、昔の思い出話が多く出ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談やご家族からの情報やこれまでのサービス提供者からの情報により把握し、また日常の会話や関わりからこれまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間の伝達及び業務日誌などでその日までの状態や現状を把握し、状況に応じた関わり・支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望・意向を一番に考えご家族・ケアマネ・看護師など必要な関係者の意見を聞き、職員みんなで意見を出し合い作成に活かしている。月一回のモニタリングにより現状に即したものになるよう努めている。	介護計画は利用者・家族・担当職員・主治医等の意見を取り入れ、部署会議で作成している。月1回のモニタリングを実施し、3ヶ月毎に管理者と計画作成者で評価し、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	出勤時にはその日の様子・状態を伝達し、また連絡帳・業務連絡表などに記載し職員間で情報を共有している。いつでも意見を出し合い実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	会話の中から希望・要望をくみ取る。また、ご家族からの外出の相談を受け外出支援を行うなどし取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	明野高校実習の受け入れ、定期的にボランティア・散髪など来て頂いている。ご本人の希望があれば髪染めに行く外出支援も行い暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の訴えや状態変化がみられた時は看護師に相談しご本人及びご家族の了解を得て、主治医及び専門医に職員同行し受診している。月1回の主治医の往診と歯科衛生士による口腔ケアを行っている。	利用者全員が協力医で、月1回の訪問診療や歯科衛生士による口腔ケアを定期的に受けている。他の科の受診は家族協力または職員同行で、常に適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	表情や身体の異変など気づいた時はすぐに看護師に相談し適切な処置及び必要に応じた受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはこちらの情報を提供し、退院時には病院からの情報をうけ、安心した治療ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時よりご本人・ご家族からの意向は聞いており、またその段階になった時には寄り添うことができるようご家族や看護師、医療関係者と連携し取り組んでいる。	年平均2人の看取りをしている。家族との話し合いを大切にして、重度化した場合には再度確認し、納得した看取りが出来るよう、家族・関係者・医師との連携を密に取り、終末期ケアを行っている。職員も看取り研修を受け、不安の除去に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や会社研修などで応急手当や初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練と安否確認メールでの訓練も行っている。ご入居者と共に実際に避難経路を歩くなどし、避難方法も含め確認し対応できるよう努めている。	防火管理者の下、事業所独自で年1回の避難・消火・通報等の防災訓練と年2回の研修会を実施している。非常食は4～5日分を備蓄している。	何時、起こり得るかわからない災害時に備え、利用者が昼夜を問わず安全に避難できる方法や職員の連絡網の作成、地域住民よりの協力方法など事業所に合ったマニュアル作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人一人の言葉を丁寧に伺い、思いを尊重し丁寧に声掛けを行っている。	利用者への呼びかけは、入居前と変わらないように名字や下の名で呼ぶなど違和感のない様に心がけている。職員には入社の際にプライバシー保護や個人情報について研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者の希望を伺っている。自己決定が難しい方にはその方に合った方法を探り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態に合わせて対応している。ゆっくり休みたい時やしたい事がある時などご本人の希望を伺いながら対応させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝・就寝前・入浴時ひげ等のうぶ毛も処理させて頂いている。服もご自身で決めて頂き、その方らしい身だしなみをして頂けるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物、嫌いな食べ物など会話の中からリクエストを伺い献立に活かしている。盛り付けや食事の準備など会話を楽しみながら一緒に行っている。職員も一緒に食事を楽しんでいる。	ご飯はユニット毎に炊き、副食は業者食を利用している。利用者の体調や好みに合わせて食事形態を変える工夫をしている。利用者が盛り付け・配膳・下膳・食器洗いなど出来る範囲で手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分チェック表に一人一人その日の摂取量を記入し把握している。その方の状態に応じその方に合った食事・水分の形態にし食事を摂って頂けるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方も見守りさせて頂き、出来ない方は介助にて口腔ケアを行っている。又、提携歯科医による口腔ケアもして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンの把握に努めている。排泄チェック表だけでなく表情や仕草などからくみ取りトイレ誘導を行っている。	高齢と共に布パンツ使用者はいないが、一人ひとりの力を大切にして、利用者全員がトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナやさつまいもなど食物繊維が含まれているものを献立に取り入れ、身体を動かして頂けるよう働きかけもしている。水分にも寒天ゼリーをお出するなどの工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴で一人一人ゆったりと入浴して頂けるよう心がけている。入浴剤を選んで頂いたり、希望の時間に入って頂けるよう努めている。	一人ひとり湯を入れ替え、週2回の入浴を基本としているが利用者の希望を聞いて支援をしている。湯船に入りたいシャワー浴利用者も職員2人介助で入れるように支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなく食堂に畳スペースやソファを設置し自由に休んで頂いている。時候に合わせて寝具の調節や温度調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報・服薬チェック表をファイル化し、記録を残し確認できるようにしている。薬管理・配薬など担当職員が何重にもチェックする事で誤り・忘れのないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し・たたみや調理など職員と一緒に一人一人の力を活かせるように努めている。個々に好きな飲み物・お菓子などお預りし食べたい時に食べて頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣散歩・買い物の外出支援を行っている。希望された方は毛染めに美容院に出掛ける外出支援も行っている。	日常的には、庭に出て洗濯物を干したり取り込んだりしている。職員同行で生活に必要なものの買い物も個別対応で出かける支援をしている。また、家族の協力で受診・ドライブなどの外出支援もしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の外出時に一緒に食材を選んで頂き会計を行っている。今現在、個人的にお金を所持している方はみえない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話を利用されている方もみえ、ご家族から電話して下さる時もあり、会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節の手作りカレンダーなどを飾り季節を感じて頂けるようにしている。トイレや自室など混乱してしまわないように貼り紙を貼らせて頂いている。	対面キッチンからフロアや全利用者の居室前の廊下を見渡すことが出来、利用者対話しながら見守りが出来るように工夫されている。壁には毎年、高校生から届く、月々の季節を取り入れた手作りの素晴らしいカレンダーが飾られている。また、廊下の端には畳の座台が置かれ、窓から四季の景観を見れる工夫がしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳スペースやソファを設置し、休んで頂いたり、ご入居者同士話して頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるタンスや椅子など配置し安心して頂けるよう工夫している。畳を敷き、布団で休まれている方もみえる。	エアコン・ベット以外は全て利用者が使い慣れた物が持ち込まれている。畳に布団で寝る利用者もいる。寝転んでテレビを見たり家族写真を飾ったり、のんびりと自由に過ごしてもらう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者の目線に合わせて自室やトイレなどの貼り紙を貼らせて頂いている。		